

2009年度 私立大学図書館協会東地区部会 館長会 会議録

1. 日 時：2009年6月12日（金）12：10～13：45
2. 会 場：獨協大学 中央棟3階 大会議室
3. テーマ：「大学図書館間の協力関係について」
4. 司 会：青山学院大学図書館長（東地区部会長校） 山本 吉宣

5. 議 事

(1) はじめに

司会の山本吉宣青山学院大学図書館長より、今回のテーマの趣旨説明と自己紹介があった。今回のテーマは「大学図書館間の協力関係について」であり、出席されているすべての館長に自己紹介を兼ねて、現状のお話を伺うこととなった。

(2) 意見交換

- ・ 専任職員の減員と業務委託化（アウトソーシングの導入）
- ・ 少なくなった専任図書館職員の教育・研修を私立大学図書館協会では実施できないか。
- ・ 書庫の狭隘化（外部書庫へ保管を委託）問題
- ・ 施設の老朽化問題
- ・ 図書館に対する教員の認識を深める。
- ・ 閲覧者数の減少
- ・ 図書予算の削減（継続図書の見直し）
- ・ 図書館の転換期ではないか。施設の問題、職員数の問題を考えると、電子媒体の活用を余儀なくされてくる。
- ・ 館長が短いサイクルで替わり、図書館をどうしていくのかというビジョンがないまま、大学の経営陣と折衝していくことになる。今後の図書館運営をきちんと考えていく上でも各大学図書館間の援助、協力が必要である。
- ・ アウトソーシングになり、職員が一人もいない。希望としては国会図書館がすべてを電子化して、そちらにアクセスできるようになればよいと思う。特に工学系の大学では学生は最新の情報を求めているので、3年経ったら役に立たなくなるケースも多い。
- ・ 図書のデジタル化
- ・ ヨーロッパでは図書館長というのは学長と双璧の立場にある。昨今、図書館に象徴される知識とか知性が退化している。大学における図書館の位置づけを大学の中できちんとする必要がある。
- ・ 東北地区では、大学、国立、私立を合わせて51の大学が協議会を作っている。身分証明書等の提示で、大学間の利用が可能である。また、スタッフディベロップメ

ントを実施した。早稲田大学から講師を招いて、スタッフ研修会を実施した。1つの図書館では困難なことも他大学と協力して補い合うことができると思う。今後も図書購入の問題とか、電子ジャーナルの問題など協力できる課題は多い。

- 予算や人員の問題から地方からの研修会、研究会への参加が困難になってきている。
- 電子ジャーナルの高騰。図書館全体として交渉をする。また、機関リポジトリに関する私学の遅れに対応する協力が必要である。
- 図書館を充実させることは、大学への評価にもつながる。
- 東地区部会の予算を研修や地方からの参加経費にもっと使ってほしい。
- 図書館職員の人事異動に関して、キャリアを生かせる職場への異動を希望する。
- 北海道地区では、全道 22 大学、国公立 9 校が参加して、非常に広範囲な相互利用を実施している。
- 山梨県は山梨県大学コンソーシアムを形成している。
- 私立大学間は競争競合関係ではあるが、協力し合い、相乗効果により発展していかなければならない。自分の図書館を代表する図書館職員を育成し、残していくことにより、図書館間の職員同士のつながりも保っていける。
- 山手線沿線コンソーシアム（8 大学）を形成しているが、有効に機能されており、他大学の学生に大いに利用されている。

(3) まとめ

司会の山本吉宣青山学院大学図書館長より終わりの挨拶があった。

所定の時間を大分超過してしまったが、参加された全大学の館長から、お話を伺うことができた。

「大学図書館間の協力」の第一は、大学間でいろいろな情報を交換していくということだと思う。その点に関しても、今回は率直なご意見を伺え有益であった。また具体的には、私立大学図書館協会がやるべき図書館間の協力として、たとえば、司書の共同研修、さまざまな研究、電子ジャーナルを導入する際の大学側のコンソーシアムを作るなど、具体的なアイデアを聞くことができた。私立図書館協会として今後どのようなことができるのかを考える上でベースにしていきたいと思う。

以上